第 2015-04 号

恵みと真理のニュース

2015 年 1 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私の良い神様はパニック障害を癒してくださり 子供達も守ってくださいました。

私が幼い頃いつも病弱だった母が隣り人に伝道され教会に通い始めて私も自然に母をついて教会を通うようになりました。教会学校で熱心に聖書を習い信仰教育を受けました。そして、神様に対する信仰を持つようになり人が死ぬとそれで終わるのではなく死んだ後、天国と地獄の世界があることを知り熱心に神様を礼拝して教会中心で生活しました。

どころが中学生の時に病気を患って指を強圧的に押しましたがそれが全身の関節リウマチ病気になりとうとう高校2年の末に学校を通えなくなりました。もう学効を通えなくて床について過ごしました。家の経済の状況も悪くて当時には医療環境が弱いし田舎で住み適切な治療時期を逸して関節８０％が硬くなる傷害になりました。毎日神様を仰ぎながら私を哀れみと慈しみを与えて下さることを祈りました。そうすると神様は治療をしてくださり私を強くしてくださいました。たとえ傷害は残っていますがこれ以上薬を飲まなくなり痛みによる苦痛にも解放してくださいました。今まで薬を飲まなくてもよく過ごしています。愛と知恵が豊かな先生を予備して私に与えられ学校に復学して続けて勉強し卒業をするように導いてくださいました。

青年になり傷害があって結婚する事がとても大きい問題でした。3年間期間を決めて朝祈りをして主の摂理と助けることを願い祈りました。神様は私の祈りに答えてくださり恵みを与えました。教会学校の教師セミナーに参席しましたが私が良く知らない伝導士が私を良く見たのか見合い繋げてくださいました。伝導士の紹介で会った方に私の弱いところを話しましたが、今の私の旦那は私を理解してくれて妻に迎え入れました。ヤーウェイレ（主が予備してくださった）私のために旦那を予備して旦那が私を愛する心をくださったのです。そのように神様の恵みで信仰の家庭を成し遂げてくださいました。

ソウルからナンヤンジュ市に引越しして初めて聖徒の登録もしないまま家から近い教会を通い主日礼拝だけ捧げる時でした。長男が事故で病院に入院して治療を受けました。子供の病室にちょうど恵みと真理教会を仕える区域長の息子も入院していました。区域長と様々な信仰生活の話をしながら子供が退院したら教会を決めて責任を持って熱心に通う教会を仕えると言ったら区域長は嬉しい顔をして恵みと真理教会を導いてくださいました。 その時にはグリに聖殿が立てられたばかりだったので奉仕する方が足りなくて早く区域長の職分が与えられました。足りないところが多いが今まで神様が与えてくださった恵みと愛に感謝する心と担える力と能力を下さる神様を委ね心で職分を受けました。初めは自分なりに熱心に担え伝道にも力を尽くしました。しかし、時間が経つにつれ職分が負担になりストレスになりました。それで疎かに教会を家から近い所に移しました。初めは楽で心にも負担がなくてよかったですが、時間が経つと礼拝を捧げても心に喜びと平安がなくて満足感がなく心が乾くなり小さい信仰も揺れ始めました。そうしたらパニック傷害になりました。.

教会に行っていくら祈って礼拝を捧げても暗い迷路の中をさ迷う感じでパニックの状態が続きました。病院に行って相談を受け薬の治療も受けましたが駄目でした。私が生きるためには恵みと真理教会に戻ることだと思いました。それで教会に行きました。聖徒達と教役者達が私は嬉しく受けてくださいましたが少し教会を離れていたしパニック傷害を患っていたので一時期は礼拝だけささげ聖徒と交わりはしなくてすぐ家に帰りました。私がパニック傷害があって聖歌隊でも思いきり神様に賛美してひたすら希望を持って祈りました。そうするうちに仲良かった姉妹が以前は奉仕したが今は恥ずかしくて休んでいると言われ、お互いに勇気を出して励ましながら聖歌隊員として奉仕し始めました。以後2年間パニック傷害で肉体にも精神的にも大変でしたが涙の祈りをしながら奉仕を続けると神様の権能で私を治療をしてくださいました。数年間私を苦しめた病気から自由になるようにしてくださいました。ハレルヤ！いまや楽しく聖歌隊で神様を賛美し仕えています。

大きい試練が来ました。長男が稀少性難病で学校を休んで家で過ごす日が多くなりました。弱り目に祟り目で二番目の子も学校生活に出来ようしなくて反抗しさ迷って学校まで欠席までしました。私達の夫婦は神様の前でひざまずく祈りました。私が病気にかかった時よりもっと切に祈りました。

そうするうちに神様に限りなく感謝しました。なぜなら、主日はかろうじて礼拝だけ捧げた旦那が子供達の問題で月曜日祈り会と金曜日祈り会にも参席して真実に神様を委ね畏れて真実な聖徒で変ったからです。私達の力と知恵が足りない事を悟り神様に悔い改めて祈りを捧げました。子供の問題を主に委ねて状況が早く良くならなくても続けて奉仕に力を入れました。やはり、神様は慈しみと哀れみに豊かな神様でした。私達を救ってくださいました。長男が正常的に生きるようにしてくださり、二番目の娘も学校で模範生で褒められるほど変ってくださいました。今長男は大企業に就職して誠実に生活し娘も祈って願ったとおり看護学科に合格して大学入学を控えています。その間神様は私に首区域長の職分を旦那には安手執事の職分を下さり感謝する心で楽しく教会と聖徒を仕えるようにしてくださいました。神様にすべての栄光を捧げます。

振り返ると私の人生の大変な事が多かったですが、神様が時によって助けてくださり、結局には万事が益となるように共に働くようにして下しました。神様から与えられた恵みに感謝します。イエス様をもっと愛します。主が再臨するその日まで任された使命を担えながら家庭が主に用いられるように祈ります。

私は大変で倒れそうなときに痛みを共にして祈って慰めてくださった、教役者と教区と区域のすべての聖徒に今日の証を通してありがたい心を伝えます。愛します。感謝します。はれるや！

［信仰コラム］ あなたがたの信仰はどこにあるのか ？

″… イエスは起き上がって、風と荒浪とをおしかりになると、止んでなぎになった。イエスは彼らに言われた、「あなたがたの信仰は、どこにあるのか」。…″(ルカによる福音書, 8:22～25)

イエス様が弟子とともに船に乗り込み湖の向こうに渡ろうとおっしゃいました。 弟は手まめに櫓を漕いだし船は カルリリ湖の上をすべるように進みました。あの時急に突風が湖に吹きおろしてきたので、彼らは水をかぶって危険になって 始めました。弟子は力をつくして櫓を漕いだが事態はますますもっと悪くなって船が沈没の危機に至るようになりました。 やっと弟子がイエス様のみもとに進んで ″イエス様 、イエス様 、私たちが死ぬようになりました。″ しながら眠るイエス様を起こしました。 イエス様が風と荒浪とをおしかりになると、止むことになった。 イエス様は弟子を向けて ″あなたがたの信仰は、どこにあるのか?″ しました。 この事件の記録を通じて聖霊がくださる教訓をよく見ます。

第一は、イエス様とともに生きながら聖徒の生にも試験と患難があるという教訓です。 荒浪した海を航海する人生に押しかける風波はその種類が非常に多様で試験と患難が免除された人はいないです。 苦難にあう時二つを憶えなければなりません。これをおかしいことと思わずに、恥ずかしがってはいけないです。聖徒の生にも逆境と試練があって試験と患難があります。 しかし一緒にいらっしゃるイエス様に訴えて助けを要請すれば聴いて災い転じて福となるようにして合力して善を成させます。

二番目は, ″あなたがたの信仰は、どこにあるのか?″ という質問に含みされている教訓です。 この質問には ″あなたがたが何を信じているのか?″という質問が含まれています。 信仰の対象は決定的に重大です。それは救いと滅亡、永生と永滅、天国と地獄に係るからです。 滅亡しないで永生を得て、地獄に行った足を振り返えて天国に向けるようになろうとすれば神様の独り子で私たちの罪をあがないしたイエス様のみを救世主で信じなければなりません。

そしてイエス様のこの質問には ″あなたがたの信仰がどこに根拠しているのか?″という質問も含まれています。

第一、私たちの信仰を神様の愛に置かなければなりません。 神様の愛は永遠です。変わらないです。差別がないです。 豊富です。 切ることができないです。使徒パウロはイエス様にあって現われた神様の愛に根拠してこんなに胆大に打ち明けました。 ″ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。″(ローマ人への手紙, 8:32) しました。

第二、私たちの信仰をイエス様の恵みに置かなければなりません。 イエス様が私たちの罪をあがないして私たちを義人になるために十字架に釘付けられて葬られになってから死亡の権勢を勝って復活しました。それから誰でもイエス様を救世主に信じて迎接すれば罪の赦しを受けて義のあると言うことを着させました。これがイエス様の恵みです。

第三、私たちの信仰を聖霊の交わりに置かなければなりません。聖三位の一体である神様は今聖霊で我らのそばにいらっしゃってまた内の中にいらっしゃいます。聖霊は聖徒を教えて、導いて、助けて、慰めて権能をください。 こんな事を行う聖霊様の交わりに信仰を置けば非常に肯定的な考え方を持つようになります。

第四、私たちの信仰を神様が言い付けて約束したお言葉に置かなければなりません。弟子たちは ″湖の向こうに渡ろう.″というイエス様のお言葉に従順して船に乗って行きました。 イエス様のお言葉は信実して権能があります。

それなら行船する中に狂風が風って大きい波が起こると言っても恐ろしがるとか気づかうまでもなかったです。 ところで弟子は彼らが直面した現実の状況に心が支配されたので不安恐怖が彼らの心をいっぱい満たしました。 イエス様は神様です。天地万物を創造した神様は彼が作った風と波を任意どおり主観なさることができます。皆さんはいつも神様の愛とイエス様の恵みと聖霊の交わりに信仰を置いてまた聖書のお言葉に信仰を置いて生きて行ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私たちが堅く持たなければならない信仰の姿勢

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日の本文にはイエス様の説教が記録されています。 私たちがいつも堅く持たなければならない信仰の姿勢三種類を語り述べました。

第一は、神様だけ仕えなさいと語り述べました。

イエス様がおっしゃるのを “だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。”（マタイによる福音書 6:24）しました。 神様と財物を兼ねて仕えることができないということを端的に見せてくれる実話が聖書にあります。
ユタやのリーダーである一りの金持ち青年が駆けて来てイエス様の前にひざまついて質問するのを “私が何をすると永生を得ますか?” しました。 イエス様は金持ち青年に “あなたが刑命を知っているかだから人殺しをするな、姦淫するな、盗むな、偽り証拠するな、欺いて取るな、あなたの親を敬いなさい。”とおっしゃいました。 金持ち青年は直ちに答えるのを “先生、これは私が幼いごろからすべて守りました。まだ何が不足ですか?” しました。 彼は律法が要求するのが何なのかよく分からなかったまま律法を守ると労力して来た人であることが明らかです。 彼は自分の基準に合わせて律法を理解して守って来たのです。 イエス様はその青年が誤った知識と信仰から脱するためにきっぱりと答えました。
“あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい 。” 金持ち青年が自分の持った財物を売り払って貧しい者等に与えれば永生を得るようになるという意味ですか? イエス様はそんな意味でおっしゃらなかったです。 イエス様はその青年が律法を守ったと言うことがその律法を自分それなりに解釈してその範囲の中から守って来たということを悟らせてくださろうとするのです。 イエス様のお言葉を聞いた金持ち青年は “彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。” イエス様を立ち去ってしまいました。財物と名声と権勢を捨てても永生を得ようと思う人がいるかと言えば永生をあきらめるとしても世の中のを得ようと思う人がいます。 永生はすべてのものをすべてあきらめても得なければならない価値があるのです。
金持ち青年は永生得ることを人生の重大課題で分かっていたしこれを切に望んだことは間違いないです。 しかし実際に自分の財物を皆あきらめなければならないと思うと永生より財物の方を選んでしまいました。
永生を得ようとすれば私たちが所有した財物を皆処分しなければならないというのではないです。 永生に最大の比重を置かなければならないというお言葉です。

二番目は、思いわずらわないと語り述べました。

思いわずらわない理由としてイエス様が 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それだのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。”（マタイによる福音書 6:25～29). 食べて着る問題で思いわずらうのかと言いました。 これは単純に食べて着る問題に局限するお言葉ではないです。 食べて着る問題は人間の生活をすべて網羅するのです。
神様が空の鳥と野の百合花より聖徒をもっと貴重に思うということは当たり前の事実です。それなら空に飛ぶ鳥と野草の面倒を見る神様がその子を面倒を見ないはずがないです。イエス様のお言葉はこんなにつながります。きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。(マタイによる福音書 6:30～32,34). 神様は私たちに必要なのが何やらすべて分かるので私たちがどんな仕事もしなくてもいいという意味におっしゃったお言葉ではないです。
最善をつくして努力するが神様に対した信仰がない人々のように思いわずらわないと言う意味です。 “だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。(34 節）しました。 今日の仕事は今日気づかって明日の仕事は明日気づかいなさいという意味で解釈しやすいです。 また明日の仕事のためにあらかじめ準備する必要がないという意味でも誤解することができます。 しかしこの句節の一番適切な意味 “明日に対して思いわずらわないで。未来に関して少しも思わないことは決してクリスチャンの信仰行為ではないです。 それは無謀で無責任な行動です。イエス様が禁止することは未来に対する賢明な考えではなく未来に対する心配です。
未来に対する計画と準備は必要です。 しかし心配しないに一日一日最善をつくして生きて行きなさいとおっしゃったのです。 私たちにどんな事が発生しても、決して私たちが手におえることができない事は一つも起きないと聖書は言ってくれています。 “あなたがたの会った試錬で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか、試錬と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。”（コリント人への第一の手紙, 10:13)で約束しました。
どんな事が私たちに迫って来ても私たちは心配なしに充分にそれに対処することができます。これは私たちが気づかわなくてもいい理由が分かるからです。

三番目は、まず神の国と神の義とを求めなさいと語り述べました。

イエス様がおっしゃるのを “まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。”（マタイによる福音書 6:33）しました。 すべての事に順位を正しく決めなければなりません。先にすべきことと後ですべきことを区分しなければなりません。 “先に彼の国を求めなさい。” 告げました。 “彼の国”は “神様の国”です。 ここで言う神様の国とは領土を言うのではなく神様の統治、または神様の王権を言います。 神様の国を求めなさいというお言葉は神様の統治を全面的に受け入れなさいという意味です。 “先に神の義を求めなさい。” 告げました。 神の義は “神様の基準に適当な義”を意味します。
人の努力と行為で成すことができるのではないです。 イエス様による神様の恵みだけ得るようになります。 そうするので “まず神の義を求めなさい。” とお言葉は自分の努力や功労を頼らずに全面的に神様の恵みに寄り掛かってただ信仰で暮すことを意味します。 まず神の国と神の義を求めなさいというお言葉は神様の命令に従順して神様の恵みと口約束を信じることを先にしなさいというお言葉です。 そんなにすればこのすべてのものを加えてくださると言いました。 加えるというお言葉はあるものその何の上に他の何を加えるという意味です。
私たちが持った能力と所有がたとえ少なくとも重要なことは神様がその上に加えるのかないかする点です。
モセは 80 歳でした。 モセ自分の話のとおり口が鈍くて手探りしました。 彼が持ったことは杖でした。 百万の大軍を従えたパロウと競うためにろばに子と妻を乗せて手垢が染みた古い杖を持ってエジプトに下がりました。 ところで神様が加えてくださったら彼の口で手探りしながら出る一言、一言にエジプト全体が焦土化されました。 モセが杖を突き出せば奇妙な能力が現われました。 パロウが両手らで降伏しました。
荒野で幾多の群衆がイエス様お言葉をきこうとして時間が経つとは思わなかったです。 群衆はもう夕方になって太陽が山に落ちるのに何も食べることができなかったままでした。 イエス様が弟子に彼らに食べ物を与えなさったら弟子は困り果てました。 お金もなくて、パンもなかったです。 その時一り幼い子供がお昼で持って来たパン五つ、魚二匹をイエス様に差し上げました。 イエス様はそれを受けて天を仰いで祝福の祈祷をしました。 そしてくれたら五千人がすべて腹の一杯食べ残したものを取ったのが１２かごになりました。 重要なことは神様が加えるのかないかです。

愛する聖徒の皆さん、イエス様が語り述べた三種類の信仰的な姿勢をいつも堅く持たなければならないです 神様だけ仕えてください 心配しないでください まず神の国と神の義とを求めなさい。 そして加えてくださる神様の恩寵を享受するように願いします。